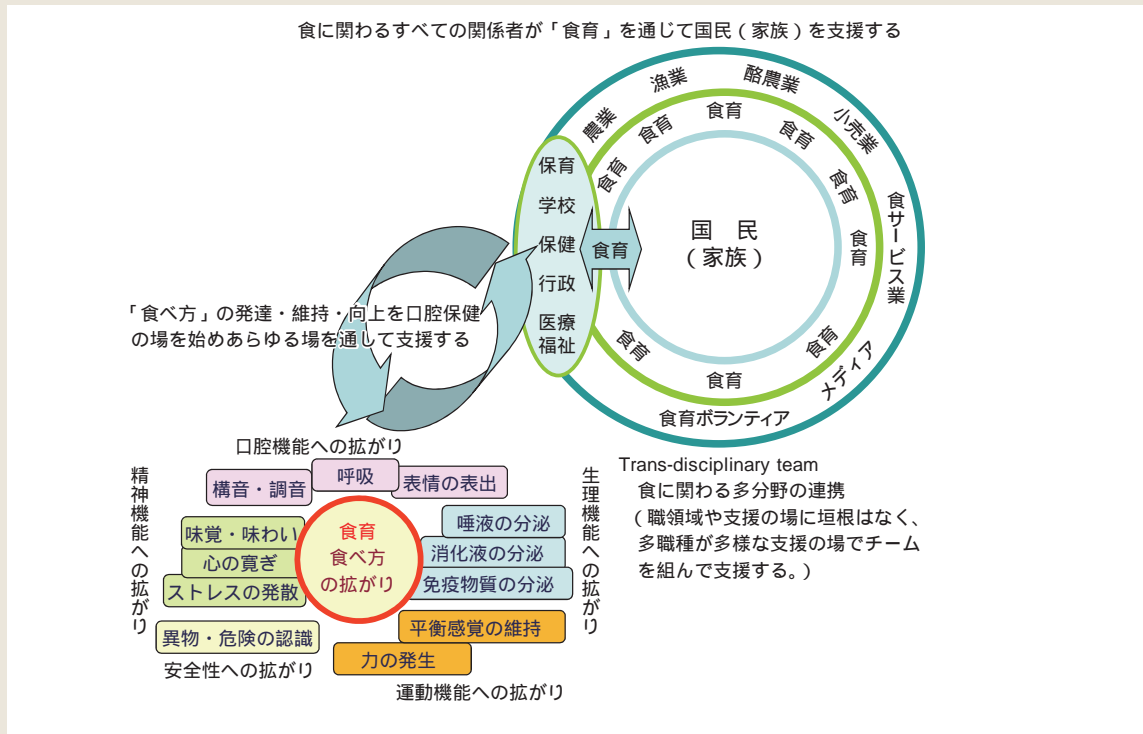


図 食べ方の食育への拡がりとお口保健・食に関わる多分野の連携



### 新たな視点を踏まえた歯科保健対策の推進

- ・ 今後の歯科保健対策の在り方については、近年の少子高齢化の進展や国民のニーズなどを的確に把握し、う蝕予防にとどまらず、高齢者に対する歯科保健対策や食育に関する取組など、幅広く検討を進めていくことが望ましいとされています。
- ・ 食育を推進するための保健医療関係者などの教育・研修の充実に加えて、歯科保健の土台である「食べ方」を中心とした食育推進のための人材を育成することが必要です。

## 2 医学教育等における食育推進

すべての医学生が卒業までに最低限修得すべき教育内容を定めた「医学教育モデル・コア・カリキュラム」においては、食生活と疾病の関連等に関して、予防医学を概説できる、生活習慣に関連した疾病の種類、病態と予防治療について学ぶ、などを学習目標として設定しており、これらに基づき、各大学において医学教育等の改善・充実に取り組んでいる。

### 第5節

## 食品関連事業者等による食育推進

食育の推進に当たっては、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者等の関係者間の連携と、各分野における積極的な取組が不可欠である。食品関連事業者等は消費者との接点が多いことから、食育の推進に占める役割は大きく、様々な体験活動の機会の提供や健康に配慮した商品・メニューの提供、食に関す

る情報や知識の提供が求められている。

近年、食品製造業、小売業、外食産業を始めとした食品関連事業者等による食育活動が盛んになりつつある。その観点、CSR（企業の社会的責任）活動の一環として位置付けている企業もあれば、販売戦略の一環として位置付けている企業もあり様々である。

具体的な取組内容としては、生産ライン・店舗の見学、製造・調理体験、農作業体験、料理教室の開催といったもののほか、店舗での行事や食育体験教室の開催や出前授業の開催等、様々な取組が行われている。

例えば、札幌市では、食品企業が自治体や大学等と連携し、食育を推進するための取組を展開している。具体的には、「食事バランスガイド」の普及啓発を図るため、市内各所におけるポスター掲示や路線バスの車両に「食事バランスガイド」のデザインを大きく掲載したラッピングバスの運行（半年間）による交通広告を実施している。また、市内のスーパーマーケットにおいて親子を対象にした「朝ごはんレシピ集」の配布、小学校での「食事バランスガイド」を活用した食育に関する授業の実施、札幌ドームでの食育行事や食育シンポジウムの開催等、多くの市民が参加する活動も行っている。さらに、調理師専門学校等の学生を対象として、食育の市民ボランティアを育成し、今後に向けた地域の食育環境の充実を図るなど、地域に密着した各種の取組を積極的に実施している。

このように、複数企業間や自治体など様々な分野の関係者が連携して食育に取り組むことで、より幅広く充実した活動が可能となるため、全国各地でこのような体制が構築されることが期待される。

近年、外食の依存度が高くなってきており（図表-73）外食や持ち帰り弁当等で食事を



ラッピングバスによる「食事バランスガイド」の普及啓発

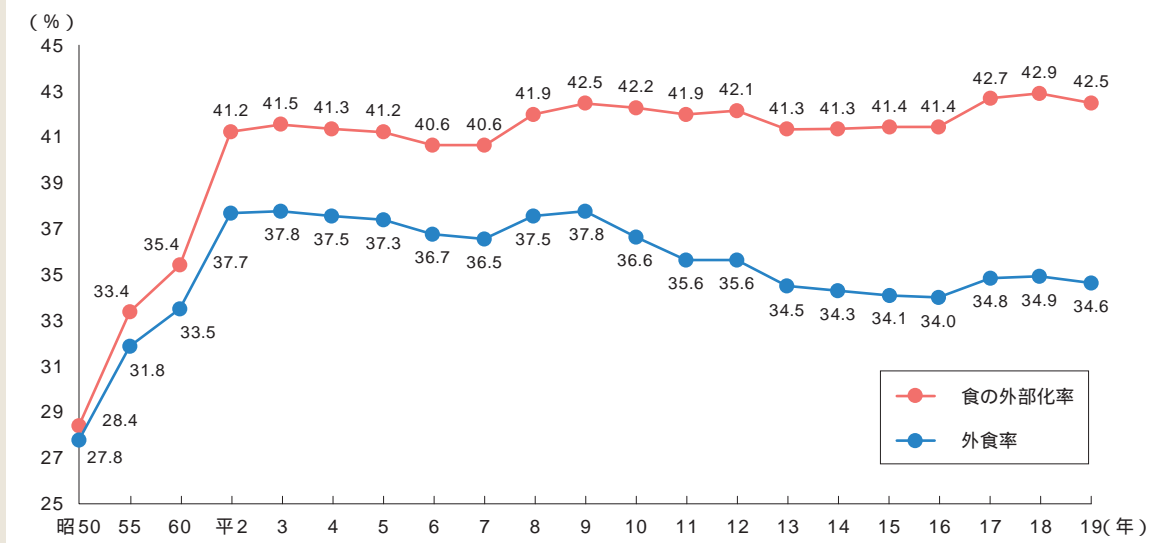


野球教室での食育セミナー

選択する際に、栄養バランスや適正な栄養摂取量の目安が分かるような情報提供や飲食店等における健康に配慮したメニュー（ヘルシーメニュー）の提供など各自治体において栄養士会、関係団体、商店街、飲食店等と協力した取組が行われている。

また、健康増進法に基づく特定給食施設である事業所等においては、職員の食事の提供の際に、栄養成分表示を行うなどの栄養に関する情報の提供を行うこととなっている。近年では、栄養成分表示に加え、健康に配慮したメニュー（ヘルシーメニュー）の提供や健康に関する卓上メモの配置、少量ずつしょうゆを差すことができる「プッシュ式しょうゆ差し」の導入による減塩対策、ごはんの小盛りの導入による摂取カロリーを減らす取組、

図表... 73 外食率、食の外部化率の推移



資料：(財)外食産業総合調査研究センターによる推計

主食・主菜・副菜をバランス良く選択できるよう食事提供カウンターの色分け表示の導入等、より積極的に健康づくりを推進する取組が行われている。

## 第6節

# ボランティア活動による食育推進

### 1 ボランティアの取組の活発化がなされるような環境の整備

食育の推進は、地域に密着した取組として推進していくことが重要である。このため、健康づくりのための食育アドバイザーとして活動している食生活改善推進員や、ボランティアの中核となり地域の食育を推進していく「食育推進リーダー」の育成等、地域に根ざした食育の活動を推進している。特に、食生活改善推進員が地域で質の高い活動ができるよう、食生活改善の実践方法や、食育の普及活動についてのリーダー研修の実施、地域

住民に対する食育に関する講習会の開催等、食育の普及啓発活動への支援を行っている。さらに、「健康日本21」の趣旨を踏まえ中学生から高齢者まですべての住民が自分の健康指標に基づき自己実現を目指す活動として、食生活改善推進員が健康づくり支援者（ヘルスサポーター）を育成し、健康づくりを進めているところである。

なお、第1部第1章第1節で述べたように、内閣府では、平成21年度から新たに「食育推進ボランティア表彰」を行うこととなった。

### 2 食生活改善推進員の健康づくり活動の促進

地域における食育の推進に当たっては、地域の健康課題や食習慣、食文化等を理解し、地域に密着した活動を推進していくことが重要である。財団法人日本食生活協会は、協議会組織と行政が連携を図りながら、「私たちの健康は私たちの手で」を合い言葉に、昭和30年代の食料不足による栄養欠乏の時代が